

## 地域振興施設（国府道の駅）に係るソフト施策について

## 1 ソフト施策案

## 【有識者会議での案】

- (1) 周辺のお寺、史跡公園、国府資料館等と結びつけてイベントを行う。
- (2) 農業体験、工房体験を実施する。
- (3) 休憩機能として、ドッグラン施設を作る。
- (4) イチゴ摘み、イモ掘り等を実施する。
- (5) 田植え体験ツアー、稲刈り体験ツアー等を実施する。

## 【整備基本計画案】

- (6) 山に近い田園景観というサイクリングに最適な立地を活かし、レンタサイクル等の観光客が利用しやすい地域周遊を促進する。
- (7) 地域の農産物の良さを都市住民や観光客に理解してもらうとともに、地域住民の日常的な買い物の場として利用されるような施設づくりを目指す。
- (8) ドライブ中に気軽に食べられるファーストフードや地元食材を使ったソフトクリームやドリンクの提供など特色あるメニューの展開を図る。
- (9) そこでしか買えないオリジナル商品を製造・開発し、新たな徳島ブランドとして販売する。
- (10) 木工や阿波しじら織など地場産業や特産品のPR、普及を目的とし、地場製品の展示会や、各種イベントなどを実施する。

## 【その他】

- (11) 徳島市が誇る地場産業を核とした新しい観光スタイルを商品化し、単なる産業紹介だけでなく、その産業を生んだ地域、そしてそこに住む人々をまとめて一つの観光商品として情報を発信する。
- (12) 家族や団体等で地場産業を体験できたり、学習できるような受入れ態勢を構築する。
- (13) イチゴ摘み、イモ掘り、食事、お土産など地域固有の観光資源をパッケージ化して提供する。

- (14) 国府は魅力的な観光施設が郊外エリアに点在しており、道の駅を拠点として、それらを周遊して楽しんでもらう。
- (15) 北海道物産展や九州物産展などを定期的に開催する。
- (16) 地元産品にとらわれず、全国からこだわりの商品を集めて販売する。幅広い商品を取り扱うことで比較優位を保つ。また、何でも揃うというだけでなく品質にもこだわる。
- (17) 道の駅の広場の一角を移動式店舗に開放し、農産物直売所やレストランにはない商品の販売等を定期的に行い利用者にサービスを提供する。
- (18) 道の駅の広場の一角を朝市・夕市広場と設定し、市民や利用者に開放し、憩いの場を作る。
- (19) 「ワクワク感」、「非日常感」が味わえるイベントを開催する。  
たとえば、「競り、市場」のような臨場感を味わえるイベントを創出する。
- (20) 付近の観光地へ向かう旅行プランを企画している旅行会社や観光バス会社に、道の駅に立ち寄ることのメリットを提供して、継続的に休憩をしてもらう施策を提案する。
- (21) せっかく購入して帰宅後に食して喜んでもらえても、自宅から商品を再度、購入するための仕組みが無いため、通販やWEB販売の仕組みを構築する。
- (22) お土産を購入した場合にクレジット決済環境を整備し、宅配便の手配も気軽にできるようにする。
- (23) レジ横商品の発掘・充実を図る。